さんけん新聞

発　行
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

ヤマセミ観察会

人工巣穴近くに姿見せず
「さんけんヤマセミ部」発足へ

広島県絶滅危惧種Ⅱ類指定のヤマセミの観察会が三月十九日、町内外の愛鳥家九人が参加して三段峡入り口周辺などで開かれた。昨年四月、人工巣穴を設置したが姿は確認できなかった。今後、「さんけんヤマセミ部」を立ち上げて、保護活動に取り組んでいく。

柴木川ダムでヤマセミを観察する参加者

巣穴は当初、三段峡ホテル駐車場の川沿いに設置したが、柴木川ダムへ移設していた。この日は巣穴を探す様子を観察しようと企画したが、確認できなかった。

さんけんは今年度、「さんけんヤマセミ部」を発足させる。野鳥の生態に詳しい認定ＮＰＯ法人西中国山地自然史研究会理事長、上野吉雄さんの指導を受けて年間調査や生態系の勉強会、啓発チラシ配布などの活動を予定している。

ヤマセミは二〇二一年、県北西部の調査では六カ所の営巣と一件の巣立ちしか確認されていない。

Eバイクで歴史と文化巡る
Dropsなどがモニターツアー

「あきおおたeバイクツアーin加計」のモニターツアーが三月十一日、十一人が参加して加計商店街一帯で開かれた。運営は広島県観光連盟と（一社）ＲＩＤＥ、さんけんが実施したツアーの事業化に取り組むＤｒｏｐｓの三団体。魅力再発見とアクティビティ開発を目的に行程を組んだ。

加計印刷で活版印刷を見学、月ケ瀬公園では舟運の歴史を学び、長尾神社、木炭自動車とレトロ館、源田実生家、鍛冶屋館を訪れて歴史や文化に触れた。吉水園では小野誉里子さんけん理事のお点前で抹茶のサービスがあった。

行程は七時間、内容は多岐にわたった。今後、質を向上させてモニターツアーを実施、商品化を目指す。

写真データの処理について解説する白川さん（左奥）

白川勝信さん北海道へ移住
送別会・歩く会開き　連携約束

北海道へ移住するさんけんの元理事、白川勝信さんの送別会が三月九日、十五人が参加して三段峡ホテルで開かれた。三段峡憲章策定やさんけん誕生への貢献、新天地での抱負、結婚のなれそめなどの話題に花が咲いた。「さんけん北海道支部」発足のアイディアが出され、今後の連携が約束された。

二十三日にはビジターセンターで白川さんが、複数写真データを使用した種分布の記録作成などについて解説。その後、六人が参加して正面口―赤滝間で「白川さんと歩く会」が開かれ、ツルシキミ、スミレ、イチリンソウなどを観察した。

宮島エコツーリズム実施研修
本宮理事長　アドバイザー参加

宮島エコツーリズム推進協議会の実施研修が三月十七日、宮島弥山で開かれ本宮炎理事長がアドバイザーとして参加した。

研修は宮島地区パークボランティアの会のガイドから自然や歴史などの解説を聞き、エコツーリズムの視点から地元事業者がツアー商品を開発するのが狙い。

廿日市市は二〇二〇年、エコツーリズム推進法による宮島エコツーリズム全体構想が認定されている。同協議会の上嶋英機会長と三段峡との縁は深く、この分野での協力を話し合った。

三段峡ビジターセンター
LOUPE
SANDANKYO VISITOR CENTER
オープニングセレモニー
2023. 5. 3／10:00
正面入り口（雨天：三段峡ホテル）

一口メモ

▼敬意

牧野富太郎をモデルにしたＮＨＫの連続テレビ小説「らんまん」が始まった。牧野は一九三〇年代に複数回、三段峡へ入っている。旅館「峡北館」の宿帳に「峡中を二日がかりで観尽（みつくせり）」と記している。植物へ敬意を表すためにも正装で観察したのは有名。山野草の季節になった。正装とまではいかないまでも、敬意を払い散策を楽しんでほしい。

セピア寫眞帖（5）

長淵眺め　老いも若きも「美味しいねえ」

正面口の赤い橋を渡り、探勝路へ入ってすぐ、狼石手前の長淵側にあった小亭。家族と思われるグループが軽食をとっている。高齢女性や子供がいるので、探勝というよりピクニックのようだ。撮影は連載一回目の「女夫淵」で紹介した野田富示仁。「芸北、カメラが語る昭和初期」にはない未発表の写真である。

今とは違い、木立ちがすっきりしていて日差しが届いている。探勝路が完成する前から住民が容易に入れた生活圏で、柴刈りや伐採がされていたと思われる。

小亭は三面が障子戸で、中段にガラスをはめて洒落ている。写真の障子戸は斜め下流を向いている。三段峡ホテルの高下務さんによると、直しながら一九六〇年代まで建っていたという。同ホテルの管理になってからは「バンガロー」と呼んでいた。現在、建物があった面影こそないが、どこか不自然な平地になっていると感じる。

当時、一帯には食堂や売店のほかに理髪店、飲み屋まであった。かつての賑わいはなくなったが、ときは移り、夏には長淵周辺で子供達の声が響く憩いの場になっている。（松尾俊孝）

正面口の案内看板更新

三段峡入り口の大型案内看板が更新された＝写真＝。シャトルバスの廃止により散策コースを削除し、峡内情報を随時掲示できるようになった。